

はじめに

会長 松村雅文（香川大学教育学部）

20 回目という記念すべき今年の「天文教育研究会」は、群馬県渋川市伊香保町において開催されました。風光明媚な温泉の町で、過去と未来に思いを馳せつつ、天文教育普及について深い考察が行えた意義深い研究会でした。参加者数は 66 名でした。

今回のメインテーマは「天文教育普及活動の 20 年、そしてこれからの 20 年」でした。基調講演は、第 20 回記念ということで、日本天文学会理事長の祖父江義明氏に「天文教育における学会と教育界の連携について」というタイトルで講演をしていただきました。天文学会における教育普及活動等についての紹介をしていただき、当会には、約 600 名の会員がいるが、その周りには、約 100 万人のオーダーの先生（多くは文系）がいる、さらに約 1000 万人のオーダーの児童・生徒がいるが、この中で当会の役割は何であろうか、という本質的かつ将来への示唆に富んだ問いかけをいただきました。またテーマセッションの「学校教育」については水野孝雄氏（東京学芸大学）に、「社会教育」については黒田武彦氏（西はりま天文台）に講演をしていただきました。更に渡辺洋一、鈴木文二、伊東昌市、伊藤哲也の各氏には、それぞれの活動を基に報告をしていただきました。今までの我々の活動の方向性の確認と、今後の伸展と深化について、より具体的に示され、非常に有意義なものになりました。

特別講演では、京都大学の嶺重慎氏に、ブラックホール研究の歴史と最前線の紹介をしていただきました。小・中学校の教材としては、直接扱われないものの、子供たちにとっては人気のブラックホールについて、興味深い話を聞くことができました。

また社会教育活動の実例として、10 年前より実践を続けている「科学ライブショー ユニバース」の出張上演がありました。私のような「ユニバース」の未体験の参加者には、大変参考になるものでした。更に第 20 回の特別記念企画として「天文の本・児童書展（塚田健氏の資料提供）、「天文教育」と集録のバックナンバーの展示」（新井浩之・水野孝雄両氏の資料提供）、「天文雑誌のバックナンバーの展示」（新井浩之氏の資料提供）が行われました。20 年を振り返るのにまさにふさわしい企画であり、昔を懐かしがる参加者の姿があちこちで見受けられました。

研究発表は、基調講演 1 件、テーマセッションの講演 6 件、ポスター 10 件を含め、合計 41 件で、いずれも素晴らしいものでした。内容については、本集録をご覧ください。

昼・夜の両方のセッションで、深刻ではあるが、あまり一般には認識されていない「社会教育施設における指定管理者制度」の問題についても議論されました。この結果、メーリングリストの議論等を経て、2006 年 9 月 12 日付けで、当会としての声明文を公表することができました。また研究会後に議論が始まりましたが、IAU の惑星定義に関する要望書も同日付けで、公表することができました。（本集録の付録に掲載）

さて、沢前会長の任を引き継ぎ、会長役を仰せつかった初めての研究会でしたが、今回の研究会開催の準備等はすべて、実行委員長の高橋秀雄さんをはじめとする関東支部の実行委員の皆様、前会長、前事務局の方々にしていただきました。ご尽力いただいた皆様に、心からお礼を申しあげます。

来年の研究会は、東北支部が担当する予定です。21 回目という大人としての第一歩となる来年の研究会で、皆様にお会いできることを楽しみにしております。